但上知ニ付、御金被下候向は、來辰年より十ヶ年賦ニ上納可致候、

右之通可被相觸候

右之趣相觸候間、得其意、以前江復し候樣、早々取計可被相觸候、

嘉永六丑年十月廿九日

知行村替願出間敷旨御觸書

伊勢守殿〔阿部老中〕御渡　大目付江

万石以上以下領分知行村替之儀、御用ニ付、公儀より被仰付候ハ格別、依願猥ニ引替可被下筋ニ無之處を、近來荒地損毛、其外勝手難澀之故を以、村替相願候面々不少候、古來より不宜場所領來候ハ勿論、是迄所替村替被仰付、收納減少候も、其時々子細有之事ニ候へバ、兼而より銘々覺悟も可有之處、多くハ等閑ニ打過、剩繁々用金をかけ、或衰微候郡村を以、引替之儀相願候ハ、如何之儀ニ有之、殊ニ御料所ハ、數多之國々ニ候得バ、荒廢之地、水旱之患ハ、猶更多分之儀、其御手當御入用大造之事ニ候處、猶又向々之願ニまかせ、相應之土地を以、不宜郡村ニ引替候ハ、際限も無之、不容易事ニ候條、向後村替之願申立之儀、差扣可被申候、尤万石以下、知行御藏前ニ引替之儀ハ、天明七年相達候國々之外、決而難相成事候

右之通、先年相達候處、近來村替之内願等被申立候向も有之候、右達之通、彌相心得、萬端御事多之折柄ニも候間、村替井總而勝手ケ間敷諸内願、容易ニ被申立間敷候、

右之通、向々江可被相觸候、

新知

〔家忠日記追加十八〕此年〔慶長九年〕松平三郎四郎定綱、〔後越中守と號す〕下總國山川領の内采地五千石を賜はる、

〔藩翰譜三久松松平〕越中守源定綱ハ隱岐守定勝の三男なり、〔中略〕〔慶長九年〕始て下總國山川の地下